

第16回

九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 久留米大学

未来を拓く 女性研究者 × 大学 × 地域社会

2025
9.25(木)

13:00 ~ 16:40

久留米大学(旭町キャンパス)筑水会館

オンライン配信あり

基調講演

「育成・定着・地方創生：男女共同参画の力と高等教育の役割」

大森 昭生 氏

(学校法人 共愛学園副理事長・共愛学園前橋国際大学学長)

パネルディスカッション

【第1部】なぜ女性は地元に残らないのか
ー キャリア形成の視点から

【第2部】地域を変える女性研究者
ー 大学が担うダイバーシティ推進と
地方創生

参加無料

事前申し込みが必要です



主催 久留米大学ダイバーシティ・インクルージョン推進室
共催 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク(Q-wea)
後援 福岡県、久留米市、福岡県男女共同参画センター「あすばる」、
全国ダイバーシティネットワーク組織(OPeNeD)九州・沖縄ブロック

URL : <https://forms.gle/RciXcj6ZJWW4W6rZ7>

第16回

九州・沖縄アイランド 女性研究者支援シンポジウム in 久留米大学



プログラム

- 13:00** 開会挨拶 内村 直尚 (久留米大学学長)
来賓挨拶 服部 誠太郎 氏 (福岡県知事)
来賓挨拶 原口 新五 氏 (久留米市長)
来賓挨拶 野田 律子 氏
(福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長)

- 13:15 基調講演**
「育成・定着・地方創生：
男女共同参画の力と高等教育の役割」
大森 昭生 氏
(学校法人 共愛学園副理事長・共愛学園前橋国際大学学長)

14:15 休憩

- 14:30 パネルディスカッション**
【第1部】 なぜ女性 は 地元に残らないのか
ー キャリア形成の視点から
【第2部】 地域を変える女性研究者
ー 大学が担うダイバーシティ推進と地方創生

16:30 Q-wea 宣言 2025

16:40 閉会挨拶

●九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea) 参加機関

大分大学ダイバーシティ推進本部/沖縄科学技術大学院大学人事マネジメントセクション/鹿児島大学男女共同参画推進センター/九州大学男女共同参画推進室/九州産業大学ダイバーシティ推進室/熊本大学ダイバーシティ推進室/佐賀大学ダイバーシティ推進室/長崎大学ダイバーシティ推進センター/宮崎大学清花アテナ DEI 推進室/琉球大学ジェンダー協働推進室/久留米大学ダイバーシティ・インクルージョン推進室

●全国ダイバーシティネットワーク組織九州・沖縄ブロック参加機関

大分大学/沖縄科学技術大学院大学/鹿児島大学/九州大学/九州産業大学/熊本大学/佐賀大学/長崎大学/宮崎大学/琉球大学/久留米大学

●お問い合わせ



久留米大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進室

TEL : 0942-65-4719 Email : d_inclusion@kurume-u.ac.jp

HP : <https://d-inclusion.kurume-univ.jp>



登壇者紹介



基調講演講師

大森 昭生 氏

学校法人共愛学園副理事長

共愛学園前橋国際大学学長

共愛学園前橋国際大学短期大学部学長

中央教育審議会大学分科会/文科省地域大学の振興に関する有識者会議 (座長)/文科省 2040 年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議/日本高等教育評価機構大学評価判定委員会/私立大学協会基本問題研究委員会教育研究充実部会/同 地方創生部会/群馬県青少年健全育成審議会 (会長)/ぐんま子どもの未来県民会議/群馬県教育委員会点検・評価委員会 (座長)/群馬県立前橋高等学校・桐生高等学校 SSH 運営指導委員/太田市立太田高等学校グローバル推進実行委員会 (副会長)/群馬経済同友会幹事・同次世代育成委員会 (副委員長)/県都まえばし創生本部有識者会議 (座長)/めぶくプラットフォーム前橋 (副会長・運営委員長)/前橋まちづくり公社理事/前橋デザインコミッション理事/めぶくグラウンド株式会社 (取締役会議長)/おおいだ地域連携プラットフォーム外部評価委員会 (委員長)/尚絅学院大学外部評価委員会 (委員長)/創価大学外部評価委員/その他
※群馬県男女共同参画推進委員会委員長を長年務めた経験あり。



コメンテーター

山村 康子 氏

国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)

人財部 科学技術イノベーション人材育成室

プログラム主管 (プログラムオフィサー)

東京医科歯科大学医学部講師、米マサチューセッツ工科大学客員研究員、シンガポール国立大学癌研究所上級研究員、東京大学医科学研究所特任准教授を経て、2010 年より科学技術振興機構プログラムオフィサー、現在に至る。

